

2023 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	文学言語学専攻
専攻主任名	烏谷 知子
教務主任名	鈴木 博雄

200 字以内

今期の総評
回答率は 100%（5 名回答）であった。大学院に対する総合的な満足度に対する評価は 4.6 で好調である。なお、前回のアンケートでは、図書館の利便性に対する評価が低かったが、今回は 4.2 に向上している。一方、前回同様、コピー機等の設備の有益度、学会への積極的な参加、研究の進捗状況に関する評価がやや低めであった。

200 字以内

改善のための方策
コピー機等の設備に対する低評価（3.0）に関しては、文学研究科の他専攻（同一の設置場所を使用している。）の院生からは高評価（平均 4.4）を得ているので、指導教員を通じて、個々の院生から具体的な意見を聞き、理由を解明する。学会・研究会への参加については、前回に引き続き、その有益性についての認識を深める機会を提供する。

2023 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	日本文学専攻
専攻主任名	嶺田 明美
教務主任名	嶺田 明美

200 字以内

今期の総評
在籍者数 5（回答率 100%）であるため、一人の評価でポイントは動くが、授業や研究に直接かわる事項については、いずれも 4 ポイント以上で、おおむね良好である。 一方、ラーニングコモンズ・院生室（1 号館 3 階 3S32）の利用率は半数であった。研究室の諸活動や学会への参加率も 3 ポイントであまり高くない。

200 字以内

改善のための方策
院生室の利用率の低い原因の一つに WIFI の入りにくさがあると思われる。これについては業務部に問い合わせたところ、edurom でログインすればよいとのことであるので、日文専攻に周知した。 学会への参加については、学会が行う院生向けの研究会などが実施されており、比較的参加しやすいと思われるので、指導担当者を通して参加を促したい。

2023 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	英米文学専攻
専攻主任名	川畑 由美
教務主任名	金子 弥生

200 字以内

今期の総評
本年度の在學生は 2 年生のみ 2 名で、両者とも修士論文執筆に専念した。論文提出が無事終了したためか、満足度が高く、学会等の参加度以外はすべて 5.00 と高い評価となった。

200 字以内

改善のための方策
来年度は新入生が 3 名入学するが、「研究室の諸活動や学会参加」ができるように、それぞれの研究活動に合わせて学会参加ができるように指導教員を中心に指導していく予定である。

2023 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	言語教育・コミュニケーション専攻
専攻主任名	近藤 彩
教務主任名	鈴木 博雄

200 字以内

今期の総評
回答率は 81.8% (11 名中 9 名回答) であった。大学院に対する総合的な満足度に対する評価は 4.56 で好評であった。前回のアンケートで低評価であった、院生研究室の有益性及びコピー機等の機器についての評価も高評価 (平均 4.2) に転じた。

200 字以内

改善のための方策
今回、高評価であったとは言え、学会参加については、研究活動の中核的要素と位置づけられるので、引き続き、大会や研究会の情報を一層、積極的に伝える。院生各自の研究の進捗についても、指導教員を中心に、より有益な研究方法の提供を心がける。

2023 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活機構学専攻
専攻主任名	高尾哲也
教務主任名	石井正子

200 字以内

今期の総評

今期は、回答率 87.5%を達成し、多くの大学院生の意見が反映された。教員の指導や授業内容、並びに、総合的な満足度に関して、いずれも 4.0 を超える評価で、研究指導の質の高さが高評価につながっていると思われる。ただし、ラーニングコモンズや、研究室の使用に関する 5.0 の評価は、回答者の数が限られており、無回答すなわち使用していない学生が多い故の結果である。開設授業や図書館の資料については一部の学生から低い評価がつけられており、分野によってはより専門性の高い研究に資するような授業や図書館資料の充実が求められる。また、自由記述欄の意見や要望にも目を向け、誠実に対応していく必要がある。

200 字以内

改善のための方策

自由記述欄の「認定アーキビストについては、結局のところ、博士課程後期の人は取得できないのでしょうか。以前お尋ねしたところ、検討中でした。」という質問は当該分野の担当者に回答を依頼したい。また、「院生のコピー機使用が有料になっていました。制度の変更は致し方ないことと思いますが、出費は大きいなと思いました。また研究費も結局使えませんでした。使い方が分からないことと、使途制限が厳しくて、私のような研究の仕方では、概ね使い道がありません。申請時期も申請しにくい時期だと思いました。」という意見については、コピーや研究費の使い方に関するガイダンスをきめ細やかに行うとともに、指導教員とのコミュニケーションを十分にとることで、改善可能な部分があると思われる。

2023 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活文化研究専攻
専攻主任名	野口朋隆
教務主任名	鶴岡明美

200 字以内

今期の総評
今期は社会人（1 年制）および学部からの進学者（2 年制）合計 14 名が修了したことで、修士論文作成指導や口頭試問を始め、全てが例年とは異なる対応となったと言っても過言ではなく、外部との連携による学会運営や修論発表会などにおいて、新規のことも行った。関係各教員には多大なご苦勞をおかけしたが、院生がほぼ修了できたことは大きな成果である。来年度も引き続き改善していきたい。

200 字以内

改善のための方策
各数値とも高い評価を得ている。生文専攻は専門分野が幅広いが、今後も高い専門性が得られる場として大学院が機能していくようにそれぞれの研究を進めていきたい。院生部屋やラーニングコモンズをより周知して使用してもらうようにしていきたい。学会活動にも積極的な参加を促していきたい。

2023 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活科学研究専攻
専攻主任名	横塚昌子
教務主任名	白川哉子

200 字以内

今期の総評
総評としての満足度は、4.5 であった。院生研究室が、4 号館 4 階にあり、実験室や教室から離れているため、使用頻度も低く、利用しにくいと思われる。したがって、その院生研究室にコピー機、パソコン、プリンターが、設置されているが同様の理由で利用しにくくなっていると考えられる。開設されている授業内容への満足度や修論の指導方法については、高評価であった。

200 字以内

改善のための方策
本年度は、在籍者数が 4 名で、院生室を使用する学生がほとんどなかった。が、次年度は、7 名なので、学生のニーズに対応した院生室にできるように、本年度の修了生に具体的な要望を聞き、改善できる点は、順次取り組んでいきたいと思う。また学生生活全般について、個々の学生と面談を実施したが、修論の進捗状況だけでなく、就職活動などの状況を把握する等の情報交換のよい機会となった。次年度も実施したいと考えている。

2023 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	心理学専攻
専攻主任名	松野 隆則
教務主任名	島谷 まき子

200 字以内

今期の総評

大学院 FD アンケートに回答した専攻院生は 26 名中のわずか 4 名であり、15.4%という記録的に低い回答率となった。アンケートへの回答を促すため、これまでは必修授業を担当する教員に依頼して授業内で繰り返しアナウンスし、時にはその場で回答させることすら行ってきたが、今期はそれらを一切実施しなかった。この結果が、大学院 FD アンケートに自発的に回答する専攻院生の割合を示していると考えられる。

ここを出発点として、今後も院生に回答を無理に求めるのではなく、大学院 FD アンケートに回答することが大学院での学びの改善に繋がることを実感してもらうことで、院生自らこの活動に参加してもらえよう様々な形で取り組んでいきたい。

改善のための方策

まずは、大学院 FD アンケートへの回答結果を回答者である専攻院生にフィードバックして、自由記述で表明された意見や要望に個別にコメントすることから始めたい。それらの意見や要望について、専攻教員で検討して返信コメントを作成し、即時性を確保するため改善報告書の公表を待たずに、掲示板等で専攻院生に伝達していく予定である。

200 字以内

2023 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉社会研究専攻
専攻主任名	鶴田佳子
教務主任名	川崎愛

200 字以内

今期の総評
指導教員を中心に授業や研究活動を各自の院生の関心によって行っている。 アンケートでは研究指導が適切に行われているという項目は 4.88 という非常に高い数字であり、院生が望む指導がなされていることがうかがえた。 集中講義やオンライン授業は 2 年制大学院であっても仕事との両立がしやすいと評価されている。 学事日程の変更があった場合の掲載場所が分かりにくいとの指摘があった。

200 字以内

改善のための方策
前回も指摘があった院生室の WiFi の電波の悪さは改善されていない。 院生同士のコミュニケーションの機会を提供してほしい、との意見は 3 月の院生連絡会で対応する。4 月の履修登録時に同級生全員履修する授業を登録するように働きかけてはいるが基礎学科が 2 つあり、院生の関心領域が多様なので難しい。 毎年、年度末（今年度は 3 月 6 日）に院生連絡会を実施し、修士論文の発表（修了予定者）と研究報告（修士論文執筆者）の機会を設けている。

2023 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	環境デザイン研究専攻
専攻主任名	下村 久美子
教務主任名	番場 美恵子

200 字以内

今期の総評
回収率が低いため全体的な評価ではないが、院生の取り組みは 4.4 で全体平均より高いが、カリキュラム・授業は 4.2、総評は 4.0 で比較的高い評価ではあるが、全体の平均値よりやや低い結果であった。

200 字以内

改善のための方策
アンケートの回収率を上げるとともにヒアリングを実施し、院生の研究活動がスムーズに行えるよう改善していきたい。

2023 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	人間教育学専攻
専攻主任名	石井 正子
教務主任名	白敷 哲久

200 字以内

今期の総評
授業やカリキュラムに関するアンケートの設問のほとんどの項目において 4.5 ポイント以上である。自由記述においても「昭和女子大学を選んで本当に良かったと、先生方の授業を受けるたびに思います。」「どの授業もたのしく、考えを深められる授業でした。」とあるように、高い満足度がうかがえる。 改善が必要と思われるのは、図書館の利活用 (4.17)、院生室の機器プリンターなどの備品の拡充 (3.83)、学会や研究会への参加促進 (4.20) である。

200 字以内

改善のための方策
来年度は教務が中心となり、大学院生と連絡を密にとっていきたい。大学院生の要望を聞きながら、必要な機器備品をそろえていきたい。また、図書館の利活用を促したり、学会等への参加を積極的に呼びかけたりしていきたい。

2023 年度後期 大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉共創マネジメント専攻
専攻主任名	粕谷 美砂子
教務主任名	李 恩心

200 字以内

今期の総評

専門職大学院のカリキュラムや授業内容に対する満足度は高い評価が得られた。特にオンデマンド講義が充実しているとの評価であった。しかし、社会人院生の研究活動への計画的な指導や学位論文または課題研究等の研究指導、図書館の活用、院生の研究活動（特に学会等への参加）の項目については改善が求められる。

200 字以内

改善のための方策

カリキュラムに対する期待度や満足度をさらに高めるための工夫が求められる。研究指導に対する改善点が多く挙げられたことから、今後は論文執筆のための指導やサポートを強化していく。また、保育分野の内容を充実してほしいとの意見が上がっているため、次年度以降検討する。授業時間に対する要望や授業ツールの改善への要望などに対しては継続的に検討し、対応していく。